

札幌らしい交通環境学習の取組み

背景・目的

公共交通を賢く使うことが、札幌の豊かな自然環境を維持するためにも大切な役割を果たす。
→ 初等教育から効果的に学ばせるために、教材・授業プログラム等を開発し、札幌市内の小中学校で広く実践されることを目指す。

札幌市の取組みポイント

1 MM教育を札幌市の小中学校全体に拡大するには、出前講座形式では限界がある。

教諭主体の授業実践！

2 単元に沿った学習プログラムにすることで、効果はより確かなものになる。

教科の中で容易に実践できる！

プロジェクトの検討・推進体制

【平成23～25年度】
学習プログラム検討のため「札幌らしい交通環境学習検討委員会」・「教諭主体のワーキンググループ」を設置

検討委員会

- 学識経験者** ・委員長：高野 伸栄 教授(北海道大学) ・谷口 綾子 准教授(筑波大学)
- 行政関係** ・北海道運輸局 ・北海道開発局 ・札幌市交通局
・札幌市総合交通計画部(事務局)
- 関係団体** ・札幌地区バス協会 ・(財)北海道環境財団
・「地域と教育」を元気にするフォーラム ・(株)アドバコム
- 学校関係** ・札幌市教育委員会 ・札幌市立小学校教諭(校長1名・教諭1名)

教諭主体のワーキンググループ

- 教諭主体のワーキンググループを設置
・WGメンバー：指導主事、小学校校長、教諭、行政、コンサル
- 学校教育における技術的・専門的事項を検討

⇒ 3年間で計13本の研究授業を実施

【平成26年度～】
広く実践されることを目指して、取組を維持するため、教諭主体のワーキンググループメンバーを中心に「札幌らしい交通環境学習プロジェクト」を設置

札幌らしい交通環境学習プロジェクト

- ・授業づくりを行い、学習プログラムの検討・開発を継続中

【WGメンバー】
指導主事1名、小学校校長1名、教頭1名、
教諭10名、アドバイザー1名、行政、コンサル

⇒ 5年間で計19本の研究授業を実施



学習プログラムの開発

【目的】

- ・MM教育を小中学校において教諭主体で実施
- ・MM教育を札幌市小中学校全体に広める
- ・MM教育を誰でも実践できるようにする

【方法】

- ・同じ研究授業を複数回実施し、精度を高める
- ・学習指導要領に準じ、単元に沿った副読本を作成
- ・副読本を活用した授業方法がわかる指導書を作成

【留意点】

- ・MM教育を広めるために、「小中学校で実践しやすいカリキュラム」を構築

[指導案]



● 3年生社会科副読本・教師向け指導書

「もっと知りたいみんなのまち」「さくってみよう昔の暮らし」



● 平成26年度改訂「教育課程編成の手引き」

(札幌市教育委員会発行)



⇒ MM教育指導案を
手引きに掲載!!

⇒ 市内全小中学校へ配布!!

北海道社会科教育研究大会での研究授業

北海道社会科教育連盟は、小中学校で社会科教育を志す教員を中心に構成されている研究団体。昭和26年に設立し研究大会を開催以来、北海道の社会科教育の向上を図ることを目的として、研究会の開催、機関誌の発行、学習会の開催など様々な研究活動を行う。毎年、全道の社会科を専門とする小中学校の教諭が一堂に会する研究大会を開催。同大会で、本プロジェクトの研究授業を実践した。

- 開催日時 / 2018年10月12日(金)
- 開催場所 / 札幌市立屯田小学校
- 参加者 / 小・中学校教諭、他

〈研究授業〉

- ・学年：5年生
- ・教科：社会科
「情報を生かして発展する交通産業」
- ・実施校：札幌市立盤渓小学校
(会場：札幌市立屯田小学校)
- ・授業者：金野ひろの教諭



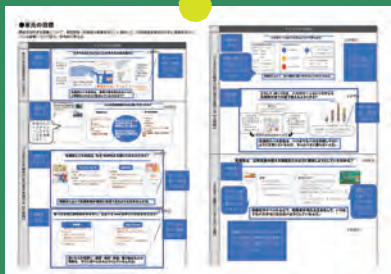
⇒ より多くの教諭へ周知!!

本プロジェクトの今後の展開

- 教諭が授業づくりをしやすい環境をつくるため、札幌市HPを改訂し、学習用のデータやグラフ、写真等を継続して提供
- 新学習指導要領の改訂に合わせ、3年生の副読本・指導書を改訂中
- 令和2年度から、札幌市内全小中学校に配布を目指す
- 新たに5年生の情報単元で副読本・指導書を作成中
- 令和2年度から、札幌市内全小中学校に配布を目指す
- 令和2年度改訂の「教育課程編成の手引き」(札幌市教育委員会発行)への掲載を目指す



【副読本】(A4判、4C、12P) ※作成中※



【指導書】(A4判、4C) ※検討中※

⇒ 新たな学年への展開
授業実施校の拡大を目指す!!